

開催日:平成19年7月2日

## 会議名:平成19年 文教市民委員会

- 協働活性化モデル事業について
- 校内LANについて
- 学校サポートチームについて
- 学校図書館司書について
- 学校園の遊具の安全について

### 協働活性化モデル事業について

橋本紀子議員

---

おはようございます。

まず、市民協働部コミュニティ推進課の方で、ページは4ページ、協働活性化モデル事業の今後の方向性についてお尋ねしたいと思います。協働活性化モデル事業がこれで3年目になるわけですが、私もことし、成果報告会というのに出させていただきます、非常に勉強になりました。本来、行政だけで行うには、割と細かい、小さい事業ですから、市民だけが行うにしては、なかなか荷が重いというようなこと。

こういうことで、ことしの報告会では、子育て支援とか不登校に対する支援とか、あるいは不法投棄のごみなど、報告があったわけです。

こういうことで、自分たちだけではやれないけれども、市が応援をしてくださる、あるいは、市の冠がつくことによって参加者も安心できるし、また、市民が必要以上の持ち出しをしなくても事業が達成されるということなんですけれども、これは何か聞くとところによると、サンセット事業と言って、1年間補助がありますが、後は、自分たちでその1年間の間に力をつけて、自立をしていきなさいということなんですけれども、その事業では、継続してその事業が取り組まれていったのか。その経過と、それから、今後、これをどういうふうに続けていかれようと考えておられるのか、あわせてお聞かせいただきたいと思っております。

那須コミュニティ推進課主幹

---

協働活性化モデル事業のお尋ねでございます。

協働活性化モデル事業につきましては、ボランティア団体、NPO、コミュニティ組織が、地域や社会的な課題の解決に向けて、主体的に取り組む事業を募集して、公益性が高

く、成果が期待できるものを選考して、その事業に必要な経費の一部を助成しております。

その成果といたしまして、NPO等と関係課との課題の共有及び役割分担により、単独で行うよりも協働することにより、より効果的に進めることができるという事例もございます。

NPO等にとりましても、地域の中、あるいは他のNPOとの信頼関係が構築でき、組織強化が図られ、一定の成果があったものというふうに考えております。

今後の方向性としましては、3年間の成果を踏まえ、市民公益活動サポートセンターで新たに取り組みられることとなっております、NPOと市との分野別意見交流会の開催などの意見交換を開催して、双方が課題を共有することで、新しい協働事業への取り組みの契機となるような仕組みを含め、新たな支援制度の創設に向けて、これまで協働事業を取り組んできました団体等からの意見を集約して、検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

#### 橋本紀子議員

---

市が行うサービスも、財政上いろいろ限界もありますし、市民協働ということを経長もずっと言っておられるわけですから、そういう意味でいいますと、市の行うサービスのネットの目を、さらにきめ細かく埋めていくということで、今後も大変期待したいなというふうに思っています。

一たんやって、すたっていくということではなく、補助が切れたけれども、その事業がずっと継続していくことが大事だというふうに思いますので、一たん補助が終わっても、違う形の市の補助がまた、最近NPOなどを支援するいろんな補助がいっぱいありますから、そういうところをつなぎながらしていくということで、継続がされていけばいいなというふうにも思いますし、また、一定ある時期が来たら、その事業がどういうふうになっているかという市の支援も、見守りも必要かなというふうに思いますので、それぞれの事業が自立していくことと、もう1つは先ほどおっしゃっていましたが、分野別の意見交流会ですが、我々や、あるいは市の行政が気がつかない新たな事業というものもきっと埋もれていると思いますから、そういったものを発掘していただいて、後押しをしていただくということで、一層の取り組みを期待したいと思ひまして、これは終わります。

## 校内 LAN について

#### 橋本紀子議員

---

次ですけれども、学校教育の方ですが、24ページの校内LANのことについてお尋ねをしたいと思ひます。この間ずっと、4校で試行されてきまして、そして、高槻には、関西大学の情報学部もありますから、そういったところのお力もいただきながら、一定の成果

を得て、ことしから全校に拡大をしていくということなんですけれども、いろいろ課題があるというふうに聞いています。

それから、指導方法の支援、開発といったソフト面のサポートというのを、代表質問のお答えでいただきましたけれども、機械保守等のハード面のサポートというのは、具体的にどういうことなのか。トラブル、ふぐあいというのは瞬時に起こってきますから、それをタイムリーに行う場合と日常点検というのがあると思いますが、そのタイムリーな方をどういうふうにされていくのか、お聞かせいただきたいと思います。

### 入江教育センター所長

---

橋本委員の校内LANについてのご質問にお答えします。

まず、課題についてでございますが、モデル校に校内LANを設置した当初、校内LANを活用した授業は、まだ一般化しておらず、どのように校内LANを授業に活用すればいいのかわからないといった状況の中、教員の情報機器を扱うスキルも未熟で、授業の中で使いこなすまでに時間を要しました。しかし、この間、そういった課題を克服すべく、モデル校での研究や実践を積み重ねてまいったところでございます。

今回、校内LANの導入と同時に、研究の成果を踏まえまして、一斉授業の中で有効活用できるよう、今まで蓄積してまいりました授業案やコンテンツの紹介、及び資料等を提供できるように準備しております。

次に、サポートについてでございますが、ソフト面でのサポートとしまして、今後も校内LANモデル校4校と教育センターを中心としまして、関西大学の協力を得ながら、指導方法の研究・開発を行い、その成果や、さきに申しました授業案及び資料等を教育センターのイントラネットを通じ、全校に提供していくことを考えております。

また、校内LANを活用した授業を推進していくための情報教育研修や、各教科研修を計画的に実施し、充実させてまいります。ハード面でのサポートとしましては、周辺機器等がすべて同一であるという一斉導入のメリットを生かしまして、教育センターで一括管理して対応してまいりますので、よろしく申し上げます。

### 橋本紀子議員

---

短時間に物すごく展開の幅も奥行きも広い事業が、これから実現するということですが、使いこなしていかなければ意味はないわけで、今後、情報研修をする、あるいは教科研修をするということですから、ぜひ年齢的なハードルの高い方も中にはおられるかもしれないし、そういった温度差ができるだけ縮まっていくように、よろしく願いしたいと思います。

それと、先ほど言いました機械保守とかトラブルですけれども、今でも教育センターに1人専任の大変優秀なスタッフがいらっしゃって、連絡をとりながらやっておられると思

いますが、全校一斉になるといって、これはなかなか大変だなど。各校の情報担当者もそうですけど、その人が必ずしも専任ではありませんから、私たちの会派で、かつて先進事例を視察をさせていただきましたときには、教育センターの中に民間のそういうサポート隊みたいなものを置いておかれまして、そこで瞬時に対応しながら、45分の授業がむだにならないようにというサポートをされていたわけですけど、そこまでするのはなかなか大変かと思いますが、いわゆる本庁にあるようなヘルプデスクのようなものを、今よりもさらに充実していく必要も、今後の課題としてあるかなというふうに思います。

ことしから導入されますから、今からいろんなことはまだまだ未知数だと思いますけれども、ぜひそういったことで、学校がこれを、せつかくのお金を投入するものですから、十分に活用していただけるような教育委員会のサポートなどもお願いをしたいということで、この件は終わらせていただきます。

次ですけど、学校教育部と管理部とまとめて質問させていただきます。

## 学校サポートチームについて

### 橋本紀子議員

---

まず、25ページですけど、学校サポートチームというのが新たに設置されました。いじめや問題行動に対して取り組まれるということなんです。確かに、代表質問でも申しましたが、いじめについては、国内外からも高い評価をいただいて、一定の取り組みをされていますし、不登校などについても研究を進められて、大きな成果を上げておられることは十分承知していますけれども、そう簡単に一朝一夕—いじめについても、かつてとは全く違って、非常に深いところで、表面化しないで潜行していくし、また、いじめに遭った人も、あすまた自分はいじめ側に回るというような、そういう新たな形ができてきているというのが専門家の意見などであります。

そういう意味で、こういうサポートチームは、そういった学校が大変困ったときに、それだけに終始しては日常の教育活動ができないということ。それから、先ほど言いましたように、いじめだけではなく、非常に教育問題も複雑化、多様化しているということ。それから、学校も2007年問題では、同様に世代交代の時期に来て、大量採用時代に入ってきているということなども含めて、大変重要なチームではないかなというふうに思っています。

それからまた、代表質問でもちょっと言いましたが、今、各報道などが、いわゆる問題親と言っていいのかどうか、言葉がちょっとわかりませんが、一般的には今、モンスターペアレントと言われている人たちの問題がたくさん出ております。クレーム対応で、本来の仕事に支障が出ているということで、全国的にもいろんな対応策があるんですが、身近に言えば、大阪市でも保護者への対応マニュアルをつくっているということですが、そういうことも含めて、このサポートチームのこれからの役割に期待するというので、教育

委員会のお考え、これをこれからどういう支援をしていくかということについてお聞かせいただきたいと思います。

## 学校図書館司書について

### 橋本紀子議員

---

それから、学校図書館の管理システムの更新のところで、ちょっとお聞かせいただきませんが、図書館の管理の担い手である若特が現在配置されていますが、一番若い方で48歳ということですから、結構長いスパン残っておられますが、大半の方は、若特制度が廃止になったということで退職していかれます。市長の方が、マニフェストで図書館司書の配置について早期に検討ということで、代表質問でもお答えいただきましたが、もう少し具体的にお考えをお聞かせいただきたいと思います。

とりわけ、若特の配置との関係と、それから導入の方法、それから兼務は、なるべく学校現場では兼務の配置というのは望ましくないと思いますが、そういったことについてお聞きしたいと思います。

## 学校園の遊具の安全について

### 橋本紀子議員

---

それから、管理の方ですけれども、27ページですが、学校施設の整備改良というところでお尋ねしたいと思います。ことしに入ってからと思いますが、大阪市で、学校ではありませんでしたけれども、遊具で市民の方がけがをされました。学校では安全デーというんですか、安全日を設けて、そういう点検もされていると思いますけれども、本市の学校・園、特に学校ですね、遊具の状況がどうなっているか。

それから、遊具の更新というのはされているということですが、その点検については、学校の教職員がしているわけですけれども、そういった管理について、どのように今後しようとしているのか、あわせてお聞かせいただきたいと思います。

### 久保指導課長

---

学校サポートチームについてのご質問ですが、委員ご指摘のとおり、社会の急激な変化とともに、学校教育にかかわる課題も多様化、複雑化しております。

また、教職員の世代交代の時期を迎え、課題の解決に向けた学校支援が、これまで以上に必要な状況となっております。

学校サポートチームは、いじめや問題行動等、緊急性の高い問題が発生した場合に学校に派遣し、学校の指導に対する助言、子どもたちへの個別支援のほか、必要に応じて、保

護者への直接的な支援を行うこととしております。

他市におけるさまざまな支援体制、また、対応マニュアル等の作成といった具体的な支援策につきましては、注視しながら、本年度の学校サポートチームによる支援の状況、成果等をもとに課題を整理し、今後の学校支援のあり方について研究してまいりたいと考えております。

次に、学校図書館司書につきましては、具体的な配置の内容などについて、現時点では確定しておりませんが、配置に向けた検討を速やかに開始し、今年度中には一定の方向性を示せるようにしてまいりたいと考えております。

また、現在、各学校では、司書教諭を中心として、若年特別嘱託員や特別嘱託員等による運営や読書指導が進められておりますので、これまでの取り組みとも整合を図りながら、学校図書館の活性化や読書活動の一層の充実につながる配置となるよう検討してまいりますので、よろしくをお願いします。

具体的な配置の内容等は確定しておりませんので、兼務についても今のところ具体的な考えは持っておりません。

#### 四宮総務課長

---

遊具についてのお尋ねにお答えします。

本市では、学校・園に設置している遊具は、ほとんど開校当初に設置されたもので、支柱等の内部腐食や金属疲労などにより、相当老朽していることから、平成13年度より順次、計画的に遊具の更新を行い、今年度の幼稚園の遊具更新をもって、ほぼ完了いたします。なお、遊具の更新に当たっては、腐食のしにくいステンレスなどの遊具の導入を図っております。

次に、遊具の日常管理についてですが、各学校・園において定期的に行っていただき、また、毎年6月に行っている学校・園安全デーにおいては、教育委員会が遊具や体育器具など、個々の点検項目を定めた安全点検表を作成し、学校・園で点検を行っていただいております。

学校・園で点検した結果、学校・園で判断のつかない場合には、教育委員会に相談をいただき、職員や業者により、安全確認に努めております。なお、簡易な修理につきましては、学校・園の配当予算でもって修理をしていただいております。費用がかさむものにつきましては、教育委員会と学校とが連携し、修理対応を行い、子どもたちの安全確保に努めておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 橋本委員

---

ありがとうございました。

サポートチームについてですけれども、ことしから新しく配置されていくということで

すから、確かにいろんな成果等、今後とも整理をして、支援していきたいということで、よろしくお願ひしたいんですが、ここに新聞などでは、問題行動を起こす親自身が精神的にサポートする必要の場合もあるということで、そういうサポートをすることによって、事態がおさまったというような事例もあります。将来的には、ことしは2名ということですが、恐らくもう少しの人数と、あるいは心理職などを含めたチームの結成も要るのではないかなということを思っています。

昨年でしたか、けやきの森市民大学で学長対談があつて、市長と神戸大の学長が対談された折も、この問題が出ていまして、本来の学校の運営が正常にできるために、余りにも理不尽な親に対応する、それはおかしいんだという、そういう毅然とした態度も要るんじゃないかというようなお話があつたと思いますが、ぜひお願ひをしたいというふうに思います。

それから、若特のことですが、子どもの読書活動推進計画もつくった経過から、学校図書館というのは、市内の一般図書館とは法律が別で、読書センター、情報センター、カリキュラムセンターとしての役割があるということで、大変期待されるわけで、そのためには人の配置は欠かせないわけです。

ですから、司書が再び配置されるということについては、大いに結構ですし、賛成なんですけれども、これまでさまざまな経過の中で、学校図書館の人のあり方が変わってきましたから、それを十分配慮した上で、今になって重荷になっておられる若特の方々が、学校図書館のシステムを構築されてきた方々ですから、そういう方々の意向も十分に酌んで進めていただきたいなというふうに思います。それから、遊具については、ちょっと安心しまして、腐食が一番心配だと思ったんですが、私もペンキが塗られているのでわからなかったんですが、ステンレス製というのを初めてお聞きして、腐りにくいし、安心だなというふうに思いましたが、ねじの緩みとか、そういったこともあるでしょうから、人というのは人件費が大変ですけれども、ここにありますように、不審なことや心配なことがあつたら、ぜひ専門的な修理対応にも努めていただきたいなというふうに思います。

続いてですけれども、ちょっと中途半端なところで切れたんですが、同じく管理の方なんですけれども、今後の学校備品の更新事業ですけれども、児童用機の更新ということですが、具体的な内容と今後の更新計画についてお尋ねしたいと思います。

それから、次は図書館についてお尋ねしたいんですけれども、昨年、子ども読書活動推進計画というのがつくられまして、進行中だと思います。その事業の実績についてお伺ひしたいと思います。

#### 四宮総務課長

---

机の更新についてのお尋ねにお答えします。

児童生徒用の机は、平成11年にJIS規格が改正され、机の寸法が大きくなっております。本市では、その時点では、部分修理で対応可能な机を多く保有していたことから、

これまで保守対応しながら、従来の机を使用してまいりました。しかしながら、現時点におきましては、部分修理にも限界の来ている机がふえてきたことから、児童生徒用の机の更新が必要となっております。

そこで、今後の机の更新に当たっては、新JIS規格の横幅、奥行きともに、これまでの机より5センチ長い机に更新してまいりたく、補正予算で小学校の1年生分をすべて更新する予算を計上させていただいております。なお、現在、1年生が使用している机で使用可能な物は、他の学年で更新が必要となっている机と交換するなど、有効に活用してまいりまたいと考えております。

今後の更新計画についてでございますが、現在使用している机の傷みぐあいや、余剰機の保有状況などを踏まえ、更新を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いします。

### 松政社会教育部参事

---

子ども読書活動推進計画に基づく事業実績ということです。

この推進計画につきましては、3つの柱を置いております。ブックスタートと、学校図書館との連携、学校図書館ボランティアの育成講座という形です。それぞれにご説明させていただきます。

まず、ブックスタートにつきましては、東部、西部の保健センターで、4か月健診のところで行ってありますが、保健センターみずからが健診不参加者への訪問、これを63組分されております。それと、図書館が行っているのを合わせますと、3,170組それぞれの赤ちゃんに読み聞かせをし、手渡しました。

2点目の、学校図書館との連携としての、学校図書館の連絡車運行事業です。これは、運行学校数が、計画前の17年度では26校、計画後、すべての希望する学校にという形にしましたので、18年度は44校に連絡車を回しております。

それと、運搬の総冊数ですが、17年度は2万6,793冊、18年度は3万6,749冊でございます。あわせて、このときから学校図書館への貸し出し限度冊数、これについては無制限という形で、希望があればすべて運搬するという形にいたしました。

最後の学校図書館ボランティアの育成講座は、3回実施いたしまして、延べ参加人数が120名でございます。

以上です。

### 橋本委員

---

机については、1年生から新たな気持ちで今日的な規格サイズでやっていただくということで、わかりました。

子ども読書活動推進計画についてですけれど、ブックスタートが始まりまして、4か月



健診に来られるのが96%ぐらいで、あと4%をどうするのかということでしたけれども、先日の図書館協議会を聞かせていただきましたら、保健センターでは、2%ぐらいが保健センターの訪問で届けられているということで、順調に進んでいるかなというふうに思いますが、あのときも一般質問させていただきましたが、本を渡すことが目的ではなくて、それから親子の関係をどう構築していくかというきっかけになることが、この事業の本来の目的ですから、丁寧な活動をさらに継続していただきたいし、また、保健センターとの連携という言葉が大切なキーワードだということでしたけれども、十分な連携がとれているというふうにもお聞きしております。今後とも、どうぞよろしくお聞きしたいと思います。

それから、学校の運行事業なんです、学校の車の乗り入れが禁止されてから、なかなか本を運ぶということが難しかったわけですが、大体1.5倍ということで、運行がされていると。

それから、貸し出し制限も無制限となったということで、現場的には非常に助かっているのではないかと思います。

平成18年度44校ですが、小・中の内訳をちょっとお聞きするのを忘れましたからわかりませんが、温度差があるということであれば、なぜこれを活用されていないのか、どこに問題があるのかということも含めて、ぜひ学校に図書数が少ないのであれば、市立図書館との連携でもって、市の財産としてそういうものを共有化していくということが大事だと思いますので、取り組みをよろしくお聞きしたいと思います。

それから、学校図書館ボランティア育成講座なんですけれども、これは学校図書館には、やっぱりマンパワーが要ると。あかすの倉庫になってはいけない、知識の宝庫にしなければいけないというようなことが議論されて、それだったら今日的な財政の状況では、ボランティア育成をするのがいいのではないかとということで、延べ参加人数120名の方が、学校図書館ボランティアとして育成講座に参加されたわけですが、学校図書館の司書教諭が配置されてきますと、役割が違ってくるのではないかとお聞きしますが、そこら辺をどうお考えなのかをお聞かせいただきたいとします。

あわせて、今度、図書館のあり方検討ということで、図書館協議会については、普通年間2回なんです、ことしは6回という回数で予算を上げておられます。協議会の性格、位置づけがこれまでとどう違うのか。

それから、諮問なざる要旨とは一体どういうことなのかということ。

それから、私も図書館協議会第1回目を傍聴したんですが、座長の方から、余りにも白紙状態で議論を委任されても非常に難しいということで、一定の方向性を示してもらいたいというようなご意見もあったわけですが、現時点ではどう考えておられるのか、あわせてお聞きしたいと思います。

## 松政社会教育部参事

---

学校ボランティアの研修、あるいは活動の件ですが、これは学校図書館法と我々の図書

館法との領域の違いもございますし、学校側の自主性の問題もありますので、学校側、あるいは学校図書館協議会等とまた相談させていただきながら、いろいろプログラムを考えていきたい、支援の形も考えていきたいというふうに考えております。

図書館協議会の2回から6回ということで、性格がどう変わったのかということですが、今回、これからの図書館のあり方という形で重要なテーマをご検討いただくということにしておりますので、今般の補正予算として4回分の追加をお願いしているということです。それと、諮問の趣旨はということでございますが、2点ございまして、1つは、市内の市立図書館が5館を整備するに至った今日の状況を踏まえた、今後の図書館整備のあり方、要するに、5館体制後のあり方についてが1点です。もう1つは、高度情報化時代にある社会的状況を踏まえた、これからの図書館運営のあり方ということで、整備のあり方と運営のあり方の2点について諮問をしたいといたしております。

それと、これからどのような方向性を持っているのかということのご質問ですが、基本的には総合計画に言う地区生活圏の構想、これをまず主に置くべきだろうという考え方をしております。

したがって、東部、あるいは東南部のいわゆる図書館空白地に対する配備の構想、こういったものが必然的に出てくるのではないかなというようなことも考えておりますし、情報化時代に対応した図書館が、情報館へ向かうのか、図書館に向かうのかということの今日的課題についても、十分議論をしていきたいというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

## 橋本委員

---

先ほど、藤田委員のお話の中にもありましたけれども、図書館の高槻の10館構想というか、そういうものがあって、今日的対応として、7地区整備構想などもあるわけですが、7館構想の総括をした上で、次にどうしていくかという話になるかというふうに思いますが、これは今お聞きしたように、図書館協議会に諮問されていますから、その議論を待っていかねばいけないなと思います。

6回ですけれども、1回は終わったんで、あと5回あるんですが、子ども読書活動推進計画をつくるに当たっても、非常に時期が短いとか、図書館問題は市民の関心が高いですから、市民意見を反映させるために、何回か市民に対しての説明とか、パブリックコメントが要するというようなご意見がたくさんあったと思います。そういったことも配慮しながら、5回で本当に大変だろうと思いますけれども、精力的に議論をしていただきまして、図書館のあり方について整理をしていただきたいと思います。

それに加えてですが、市長のマニフェストや、あるいは代表質問のお答えにもありましたが、それにあわせて、天神山図書館の北部移転問題というのがあります。藤田委員もおっしゃっておられましたけれども、現時点の位置で何かお聞きになっているとか、何かちょっとさっきおっしゃっておられましたが、それについてのお考え。

それから、現在の天神山図書館が、おおむねどういった地域の方がご利用になっておられるのか、わかる範囲でお答えいただきたいと思います。

### 松政社会教育部参事

---

まず、移転をする場合に、北部のどのあたりかということにつきましては、用地の問題が一番大きくありますし、現時点では構想はしておりません。ただ、地区生活圏ということで考えて、北部の適当な位置にというふうな、現時点での考え方です。

それと、天神山図書館の利用者分布というんですか、利用者の状況ですが、これはまだ一部の機関の抽出データですが、それをご理解の上でお聞きいただきたいんですが、多いところで町別に5つを抽出しました。真上町、日吉台、安岡寺町、天神町、奥天神町というところが多いというふうに認識しております。

### 橋本委員

---

天神山図書館、一番古い地域図書館ということで、バス停が前にあるということで、多くの高齢者の方々もご利用いただいているように私も伺っておりますが、地域の住民の方に移転を含めて、きっちりと理解していただけるように説明をしていただきたいということと、また、その跡地利用についても地元住民の意向を十分反映していただきたいということで要望をしておきます。

最後になりますが、31ページの文化振興についてお尋ねします。

現代劇場と市民会館の運営についてですが、文化芸術等のニーズにこたえる施設にするところなんですが、私もいろんな方から要望を承っております。ホールの受け付けが10か月前になっているんですが、他市では、1年前から受け付けておられるわけで、高槻在住の芸術家の催しも、そのために、茨木市なり近隣の市に移って行わざるを得ないので、ぜひ高槻でもそういう改善をしていただきたいという声があるわけですが、これをどのように把握されておられるのかお聞かせください。

### 岩佐市民参画室長

---

受け付け期間に関しますお尋ねでございますけれども、ホールを使つての催しの場合、できるだけ早く、場所を確定させておきたいという市民の方々のお気持ちというのは、十分理解しております。

しかしながら、受け付け期間の延長に関しましては、いろいろと調整する課題がございますので、それらの解消が可能かどうか。また、市民会館の建てかえ問題もございますので、できるだけ市民の方々のご要望に沿えるよう、検討をしてみたいと思いますので、よろしく願いいたします。